

【学校教育目標】

(開心窓)

知

よく考える

情

心の窓を開く

なかよし

がんばる

意

じょうぶなからだ

体

【目指す子ども像】 自分のあたまで考え、自分のことばで表現する子ども
～豊かな体験や活動に根ざして～

心・仲間《学級》づくり

- 一人一人の居場所のある、安心できる学級づくり
 - ・Q-U検査を利用した学級づくりを進めるために、研修会を1・2学期に各1回実施する
 - ・主体的に自らを表現できる人間関係づくり
 - あいさつが響き合う学級学校づくり
 - ・時と場にあったさわやかなあいさつや会釈
 - 〈心〉をみがく「もくもく清掃」「なかよし班清掃」
 - 歌声があふれる学級学校づくり
 - ・定期的な音楽集会の実施、全校での高まりを実感する機会の確保
- 《学級の中核的活動から生まれる体験的な学習の重視》

教室をひらく

明日も
来たくなる
学校

体《健康》づくり

- 運動に親しめる環境づくりの推進
- 毎週火曜日に位置づける「体育集会」での基礎体力向上のための継続的な取組（マラソン、なわとび運動など）
- 健康教育のさらなる推進
 - ・手洗い、うがい、歯みがきや歯と口の健康、視力、喫煙や薬物乱用の害等、生活習慣づくりや健康全般に関わる継続的な指導
- 食育（地産地消）の推進
 - ・感謝して残さず食べる指導
 - ・栄養のバランスを考える指導

子どもの声をきく

子どもの姿を受容する

学び《授業》づくり

授業づくりの合言葉（5K）【かかわる－感じる－考える－書く－語る】

これを支える場 「豊かな体験や活動の場」・「考え合う場」・「表現する場」 の設定

～この過程や結果の中に自分のことばが生まれる～

《アクション1》

問いや願いをもち

学習の見通しがもてる授業

（事象との出会い、板書、スモールステップでの指示、ゴールの提示、既習事項の掲示等）

《アクション2》

自分の言葉で

表現する場の位置づけ

（ノートへの記述、ペア、グループ・ホワイトボードなど思考交流ツールの活用）

《アクション3》

ねらいを明確にした

体験（協働）活動

総合・生活科と教科、地域（ふるさと）学習との関連したカリキュラムづくり

幼保小中の連携

- 連絡会、地区行事、運動会・音楽会などを通して、つながりのある関係づくり
- 「子どもカルテ」を作成し、確実に引き継ぎ、将来へつなげる連携
- 保小、小中職員の合同研修
- “飯島を担うこどもの育成”という考えを基盤に、〈子どものとらえ方〉や〈教師のあり方〉の研修
- 定期的な情報交換と支援策の検討

特別支援教育の充実

- 特別支援学級における支援
 - ・保護者の願いを肯定的に受け止め、子どもの特性などを生かす指導
 - ・副学籍児童との交流
- 通常学級における支援
 - ・どの子もわかる喜びが感じられる指導の工夫とチーム支援
- 教育相談
 - ・不登校、発達の凸凹、いじめなどについて、チーム支援による予防と早期対応

家庭地域との連携

- 運動会、音楽会、ロードレース大会などの行事をPTAと共に創り上げる学校
- 町三校による地域公開の実施、各おたよりなどで、地域に発信する学校
- 「いいじまっ子応援団」による地域と協働した学校
- 飯島を素材とする「ふるさと」学習の推進、地域講師による指導
- 俳句づくりを楽しむ活動の継続と発展

カリキュラム経営を支える 財務

子どもの姿

- 素直で純粹である。
- 子ども同士、関わって学び合うことができるようになってきている。
- 目標やめあてをもつと、最後までやり抜く力がある。
- 外遊びができる子が多い。体力面は持久力に課題があるが、柔軟性と筋力は標準にある。

保護者地域の願い

- 友だちのことを思いやり、支え合える子どもになってほしい。
- 地域を愛し大切に子どもになってほしい。
- 健康で、丈夫な体をもつ子どもになってほしい。
- 苦しいことにも負けない、強い心をもつ子どもになってほしい。